

## 和歌山病院での実習を終えて



下野 竜生

今回、私は呼吸器内科でのポリクリの一環として、11月7日、8日の2日間にわたって和歌山病院で臨床実習をさせていただきました。大学病院とはまた違った環境で勉強する機会を与えていただき嬉しく思います。

駿田副院長の結核についてのセミナーでは、感染様式について考えました。実際にN95マスクを着用して結核病棟に入ること、臨床の場における感染防御の実態を学びました。大学病院では回診の際に結核患者の病室へ入室するのは先生方のみの場合が多く、N95マスクの着用の機会は限られています。私自身も初めて体験することができて良かったと思っています。

臨床工学技士の方からは、オペ場の中で実際に自分の口に呼吸器のマスクを当てて換気の方法を学習しました。酸素の供給量と混合される空気の割合、通常の呼吸器とネーザルハイフローの違い、患者の呼吸量などの関係を教えていただきました。麻酔科や救急、各外科系診療科の術後管理など様々な診療科に必要な知識であるにもかかわらず、大学病院では曖昧なままとなってしまうため、とても勉強になりました。

南方院長のセミナーでは胸部X線の原理と読影方法について自分たちで考え、意見を出し合いながら教えていただきました。ぼやけてファジーに感じていた単純X線写真という検査を、きわめてシンプルに噛み砕く術が身につきました。今後、多くの症例を経験することでさらに詳しい所見まで読影できるようになりたいと思います。また、南方院長と研修医の先生にはおいしい焼き鳥をご馳走していただき、御坊のお話や他の先生方のお話を聞くことができ非常に興味深かったです。

今回の実習では、呼吸器内科に関する知識はもちろんのこと、その他の領域でも必要な多くの知識を楽しみながら得ることができました。私は卒後の研修先について、和歌山へ残るつもりで研修病院を検討しています。もしもまたお世話になる機会があれば、どうかよろしくお願ひ申し上げます。最後になりましたが、ご指導いただいた南方院長、駿田副院長、スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。